

公益財団法人ハイライフ研究所  
日本アジア共同研究プロジェクト

取材レポート「アジアの都市ライフスタイル新潮流」

## 「ホーチミンの都市ライフスタイル新潮流」(連載4回)

第4回 ベトナムの伝統と新しい生活文化、そして日本との交流

主執筆者 DO My Hien (ドミーヒエン)



2002年 ハノイ貿易大学貿易学部日本語学科専攻卒業  
同年 キャノンベトナム人事部入社  
2006年 信州大学大学院、経済・社会政策科学研究科経済修士卒業  
2007年～現在 名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期  
2011年～2013年 ホーチミン貿易大学講師(経済学史)  
研究分野：農村開発、開発経済、経済学史

主執筆者 NGUYEN THI BICH THUY (グエン チイ ビク トウイ)



1999年 ホーチミン人文社会科学大学 東洋学 入学  
2001年 神戸大学 国際文化人類 入学  
2003年 ホーチミン人文社会科学大学 卒業  
2009年 ホーチミン人文社会科学大学 日本語教師  
2011年 Southern Columbia アメリカ大学修士経営 Marketing 卒業  
2011年 ハノイ貿易大学ホーチミン市分校 日本語講師  
2012年 Phillipine Bulacan 大学 博士コース 経営  
2013年 Saigon Arts 短期大学 校長助手  
研究分野 日越比較文化

事業分野 2009年 Lapis 日本語学校 起業  
2010年 Aqua Palace Wedding & Event Hall 起業

共同研究者 古川一郎 一橋大学教授  
福田 博 縄文コミュニケーション(株)

## はじめに

ベトナムは、南北に細長く、その地理的特性は異なり多様性のある風土を生み出している。そして民族は、9割のキン族と53の少数民族が共存し、それぞれ独自の様々な生活習慣や伝統的文化を大切にしている。ここでは、代表的なキン族の伝統的生活習慣や生活文化を通して、伝統的な生活スタイルから新しい都市ライフスタイルへの変化について報告する。そして越僑や外国文化の影響、そして日本との交流を通して、新たな生活様式やビジネススタイルが生み出されている現況を把握する。そして地理的優位性の高いベトナムが、将来、アセアン諸国と協調しながら豊かな生活、社会、国家を創るために取り組むべき課題について考察する。

## アジェンダ

### 1. ベトナムの伝統的な生活スタイル

- 1) 故郷と家族を大切にする価値観
- 2) 多様な宗教を受け入れるベトナム人の宗教観

### 2. 変わる生活習慣と新しい生活スタイル

- 1) 伝統的な結婚式や葬儀から都市型への変化
- 2) 共同体の求心力としての祭りとこれからの冠婚葬祭

### 3. もうひとつのベトナム「越僑」

- 1) 海外ベトナム人の存在感
- 2) 「越僑」は文化やビジネスに大きな影響を与える

### 4. ベトナムが影響を受ける海外のコンテンツ文化とライフスタイル

- 1) ベトナムの独自文化と香港文化影響の時代
- 2) 韓国ブランド戦略の影響を受ける
- 3) 一般のベトナム人には、存在感が薄い日本ブランド

### 5. 日本への理解と動き出した越日文化交流

- 1) 大きく変わったベトナム人の日本に対する理解
- 2) 活発な交流が期待されるベトナムと日本

### 6. 越日経済交流とベトナムへのワークスタイルとライフスタイルへの影響

- 1) ベトナムと日本との経済関係
- 2) ワークスタイルとライフスタイルへの影響

### 7. ベトナム民族の誇りと将来へ向けて

(日本側レポート)

ベトナムの地理的優位性と寛容性でアセアンの経済と文化の牽引役へ

## 1. ベトナムの伝統的な生活スタイル

### 1) 故郷と家族を大切にする価値観

ベトナムの北部平野の伝統的文化や生活習慣は、中国からの影響に加え、中国雲南を上流域とする紅河デルタの恵みを受けた農業を基盤として形成された。歴代政権は治水と水路利用の歴史であり、17世紀頃からは、家や耕地を洪水から守るために輪中堤防<sup>1</sup>が築かれ、その中に集落が造られた。その集落の特性は、密集住宅で人口密度は高く、災害や外敵の侵入に対して村全体で対応する強い絆で結ばれた共同体である。また輪中堤防外には、窯業生産、絹織物製造、酒造り、木工品の製造などの独自の産業集落を形成し、商業集落と共に地域全体の多様な経済活動を支えていた。

このような集落は、単なる地域産業組織ではなく、地縁共同体であり、血縁共同体である。そして村全体が「大家族」としての役割を持つ。それが全てのベトナム人が、故郷を拠り所としている理由であり、「王のオキテもムラの垣根まで」と言われる所以である。そして村と同様に、またそれ以上に大切な存在が家族である。ベトナム人は、家族が基本であり、心の拠り所である。親は子を慈悲の心を持ち養い育てる、子は年老いた親を養う、兄や姉は幼い弟や妹の面倒を見ることは儒教思想に基づく規範であり、ベトナム人の変わらぬ道である。

しかしこの様な共同体の自由な経済活動や伝統的な習慣は、社会主義政策による農業集団化の時代（'58～'86年）には大幅に制限された。各地の特産品の自由な販売や、農村から離脱することは困難を極めた。そしてそれだけではなく、開墾のため都市部から農村部や山岳部への移住が促がされた。その結果、社会は停滞し経済は疲弊した。しかし家族の絆の強さは変わる事がなかった。例えば、旧正月には、必ず生まれ故郷に帰り、家族と再会することが、伝統的な生活習慣であり喜びである。大晦日には、幸運を得るためにお守りを受け取り、正月になると、バイチュン（ちまき的一种）と爆竹<sup>2</sup>で、家族の幸せと繁栄を祝う。この瞬間はベトナム人にとって、素晴らしい時。過ぎた年を忘れて、新しい年は、運が舞い込むように皆が心を開く。ベトナム人は、家族と地域の絆を深める伝統的な特別な日は、決して忘れないのである。



\*ベトナムには祖先を敬う伝統文化がある

<sup>1</sup> 輪中堤防とは、集落や耕地を水害から守るため周囲を堤防で囲んだもの。

<sup>2</sup> 最近では、他のアセアン諸国と同様に、爆竹は禁止されている。

## 2) 多様な宗教を受け入れるベトナム人の宗教観

ベトナムは、様々な宗教や信仰が生活に定着している多宗教の国である。宗教の自由はあるが、社会主義国であり、過度な呪術信仰や占いなどは制限されている。現在、政府が公認している宗教は六つ。最も信者数が多いのは仏教でベトナム人の約 8 割、そしてカトリック、プロテスタント、イスラム教、カオダイ教、ホアハオ教が広く普及している。さらに多くのベトナム人が、昔からの自然崇拜や祖先崇拜などの伝統宗教、呪術、占いなどを信仰している。

ベトナムの宗教の特徴を観ると、まずは情緒的な側面が大きいことである。各宗教の信者は、その宗教を信仰してはいるが、宗教の教義を十分に理解していない人が多い。多くの人々の入信理由は、感情的なものであったり、勧誘されたりなどで、信者としての意識は低いのである。

次の特徴として言えるのは、仏教やイスラム教などの様に、ベトナムの宗教は、領土戦争や宗教紛争などによらずに、貿易や文化交流を通じて自然な形で外から入ってきた。また植民地政策と共に進出してきたカソリックやプロテスタントもある。歴史的に見ても、ベトナム人は、他の宗教を拒絶せず受け入れる国である。それはベトナム人の寛容さ、人々の優しさによるものだと言える。

そしてこれらの外来宗教は、社会に布教する過程の中で、ベトナムの自然風土や伝統文化、さらに伝統的な祖先崇拜や各宗教の影響を受けながら、社会に同化していった。元々ベトナムには、伝統的な信仰や原始宗教が、精神生活にかなり深く定着している。ベトナム人は、その伝統的な価値観を大切に残しつつ、様々な宗教を受け入れ、巧に同化し、むしろ新たな宗教文化として創造する能力を持っているのである。グローバリゼーションの時代、異文化や異なる価値観と対峙する時代環境の中で、この資質は、ベトナムの新たな発展のためには大いに役立つと思われる。



\*ホーチミン市内には、仏教寺院が多く有り、参拝客で賑わっている

## 2. 変わる生活習慣と新しい生活スタイル

### 1) 伝統的な結婚式や葬儀から都市型への変化

昔のベトナムでは、結婚は、自由恋愛ではなく家同士の結びつきが基本であった。儒教思想の影響から、貞操観念は強く、見合い結婚であり、嫁は姑に従い、家を絶やさず発展させることが求められた。ベトナム人にとって結婚式は、人生の中で一度だけの神聖な儀式である。従って佛暦を良く見て花嫁花婿に最も良い挙式の日を選ぶ。悪い日は、二人の離婚や病気、経済的損失、あるいは死に繋がると考えられている。そして結納は、キンマの葉とビンロウの実を花婿から送る。結婚式は、家族の社会的地位を誇示する場でもあり、盛大な結婚式が数日続くこともある。これが伝統的なベトナムの結婚であった。

しかし近年、都市部では、ライフスタイルの変化と共に、結婚観が大きく変わってきた。若者は自由恋愛が進み、出会いは友人からの紹介が多く、ネットで知り合う機会も多い。また農村から都会に、勉学や仕事で出て来て、親の目も届かぬ中で、同居を始める若者達も少なからずいる。最近では、規制も緩和されたことで、越僑との結婚も増えている。

現在の結婚式では、結婚式場を営む事業者が様々なサービスを提供。大聖堂の前でウエディング姿の花嫁と花婿を撮影し、披露宴では、家族や友人、そして会社の同僚など 300人程度が招待され、盛大にお祝いされる。平均年齢の若いホーチミン市では、結婚式ラッシュの状態である。そして結婚後は、親と同居ではなく、核家族化現象が出始めている。

離婚も最早異常なことではなくなっている、夫の浮気や金遣いの荒さなどが原因で、女性主導の離婚が増えている。子供がいても親元に頼るので、今までと同じように働くことが出来る。女性にとって離婚は、社会的にもハンディではなくなっている。この様に都市部では、新たな結婚観や家族観が生まれ始めているのである。

そしてベトナムには、もうひとつの結婚がある。斡旋業者による中国、韓国、台湾などの農村男性との国際結婚である。この場合、結婚後は本国にいる家族に仕送りをするのが、一般的である。しかし異文化や生活習慣の違う中での斡旋国際結婚は、孤立感や虐待などの様々な問題も起きている。また適齢期の女性が海外移住することは、ベトナム国内の結婚と人口のバランスを崩すという問題も出始めている。

葬儀も大きく変わってきている。ベトナム人は、先祖や死者へ畏敬の念を持ち、葬儀を大切にす。一年目の忌日(命日)は、とても重要で家族全員が必ず集まり、死者を弔う。もちろん宗教によって葬式形態も変わるが、仏教式の埋葬は、昔から土葬が一般的で、三年目には改葬される。しかし、都市化が進行している現在では、土葬は墓地代が高騰し一般的な市民にとって大きな負担になっている。埋葬場所や衛生、環境などの問題から、政府は火葬を推奨。国民も火葬を行ない始めるなど、葬儀形態が変わってきている。



\*大聖堂の前では、記念写真が大好きなカップルが様々なポーズで記念撮影

## 2) 共同体の求心力としての祭りとこれからの冠婚葬祭

ベトナムの祭りは、祖先を敬う心や村の平和と繁栄を願う信仰で、地域が一体となって楽しむハレの日であり、共同体の求心力を高めるものである。ベトナム文化の研究者によると、春夏秋冬の季節で全国の主なものだけでも約 500 の祭りがある。祭りには、歴史的な英雄や国家に貢献した人々を崇拝するという側面を持つ。また過去と未来への架け橋としての役割もある。

しかし、都市部の新市街化地域では、新住民相互の交流は稀薄であり、祭りに対する思いも変質してきている。今後、都市部のコミュニティを活性化させるためには、祭りの再定義も含めて、共同体の求心力を高める新たな祭りの創造も必要になってくると思われる。

ベトナムの冠婚葬祭は、社会主義化以前（～ ‘45 年）は、伝統に則り家族の繁栄や村の繁栄を願う、また富裕層には社会的地位を誇示する祭事であった。そして社会主義が強化されて以降、大規模で華やかな祭事は自粛させられていたが、ドイモイ以降は、状況が大きく変わってきた。大切にすべき伝統的様式や価値観は守るものの、生活の向上やグローバル化などの影響により、新しい様式の冠婚葬祭も登場してきている。それがホーチミン市などの都市部であり、伝統と革新が融合する新しい生活様式が生み出されているのである。



\*モンゴル軍を迎え撃った祖国の英雄「チャン・フン・ダオ」の銅像

### 3. もうひとつのベトナム「越僑」

#### 1) 海外ベトナム人の存在感

海外在住ベトナム人（越僑）には、ベトナム国籍を持つ人と、長期間居住した結果、申請して外国籍を取得したベトナム人がある。<sup>3</sup>越僑については、本レポート第2回で紹介したが、海外在住ベトナム人は約450万で、米国居住が最も多く約220万人（'10年）。海外100ヶ国以上に居住し、先進国の越僑人口は約80%を占めている。

越僑が生まれた背景は、'54年以降、フエ王朝及びフランス植民地政権で重要な地位に就いていた特権階級が、迫害を恐れてフランスやカナダ（ケベック州）、その他のフランス語圏に移住したことに始まる。もうひとつは、ベトナム・アメリカ戦争終了（'75年）以降、南ベトナム政権幹部や富裕層、そして華僑や華人など多くの人々が、自由を求め生死の危険を賭してボートで脱国した「ボート・ピープル（Boat people）」である。

越僑の中には、過去の苦い体験から、今でも社会主義のベトナム政府を許さない人もいる。しかし殆どの越僑は、故郷と家族を想い、祖国の発展を願う。その越僑の生活状況は、国内のベトナム人から見ると、豊かであり、恰好よく、金持ちと思われ、良いイメージを持たれている。政府も、ドイモイ政策（'86年）以降、敵視していた越僑と協力した方が国益になると考えを改めた。そしてアメリカとの外交関係が回復後（'95年）、彼らの地位向上を図るため、憲法まで改正（'01年）して国民の「和解政策」を進めた。その結果、越僑の里帰りや越僑の投資が大きく増加している。事実、ベトナム経済、特に南部のホーチミン市の経済を、これまで支えてきたのは越僑からの投資と送金であった。

越僑の動向は、常に注目されている。現在は、ベトナム首相の娘と越僑の男性との結婚である。越僑の夫は、首相ファミリーの後ろ盾もあり、ビジネスでの成功がメディアでよく取り上げられている。今年、ベトナムマクドナルドの代表を務めるとのことである<sup>4</sup>。これまで出店していないマクドナルドは、ホーチミン市人民委員会の許可が下り、いよいよ来年度に第一号店を出店するとのことである。

#### 2) 「越僑」は生活文化やビジネスに大きな影響を与える

越僑と国内の国民との繋がりの中で、最も良く取り上げられるのは音楽である。アメリカ・ベトナム戦争の時代から活躍している歌手、作詞家や作曲家の多くは、国内ではなくアメリカに居住している。越僑の音楽は、精神的な文化として国内ベトナム人に大きな影響を与えている。

ベトナムは、社会主義の下で市場経済を推進しており、経済だけでなく音楽の分野でも自由化が進んでいるが、現状は混沌としているのが実態である。歌手の実力を見ても、モデルから、あるいは女優から歌手になったりと、質の高いベトナム音楽市場が形成されて

<sup>3</sup> ベトナム国籍法、3条、2008年

<sup>4</sup> <http://baodautu.vn/news/vn/doanh-nhan/henry-nguyen-bao-hoang-dua-mcdonalds-ve-viet-nam.html>, July 16, 2013

いるとはいえない。音楽好きな国民にとっては、そのレベルの国内音楽では、音楽性や乗りの良さの点でも、心の琴線に触れない。ベトナム人の多くは、今でも越僑の歌手、音楽に心が落ちつくのである。

ファッションや食生活の世界、レジャーやライフスタイルの分野などでも、越僑から多くの影響を受け、生活スタイルの中に積極的に取り入れている。そしてビジネスの世界でも、米国等での豊富なビジネス経験を持つ越僑が、国内の企業経営に良い影響を与えている。ホーチミン市における越僑のサービス業（レストラン、フランチャイズ、コンサルタント）では、新しい成功事例が多く出ており、新しい経営モデルとなって注目されている。

越僑の母国に対する貢献は、この他にも教育分野がある。それは「国民和解」の象徴にもなっている。それは先進国の先端技術や科学技術に関する高度な知識である。また多くの越僑学者が、ここ数年、ベトナムの研究機関や大学で講義や学会を行ない国内学术界に好影響を与えている。越僑からの年間 100 億ドルに及ぶ海外送金はもちろん重要だが、今後は、ベトナムで最も関心が高い教育分野への越僑による貢献が期待されている。

越僑は、迫害を逃れ自由を求めて祖国を離れたが、現在は祖国に戻り、成長に貢献している人々も多にいる。ベトナム知識人の多くが、「越僑はベトナムの将来に良い影響を与える」と大きな期待を寄せているのである。



\*外資によるオフィスビル&商業施設ビル開発

#### 4. ベトナムが影響を受ける海外のコンテンツ文化とライフスタイル

##### 1) ベトナムの独自文化と香港文化影響の時代

ドイモイ以前のベトナムのコンテンツ文化は、民族統一と戦意高揚のための宣伝映画が主であった。しかしドイモイ以降は、映画文化にもテーマの自由化などの影響が現れた。そして制約がある中でも多くの香港映画やハリウッド映画が輸入された。

元々ベトナムでは、娯楽の少なかった '75 前後の早い段階から、香港映画が輸入され、ベトナム人に受け入れて人気になっていた。そして映画のファッションやライフスタイル、マナーから大きな影響を受けた。香港は中国文化であり、中国文化から大きな影響を受けているベトナム人の人生観には、共感できるものが多い。また香港の俳優は、ベトナム人と良く似ているので、映画の世界に自分を投影し、俳優の生活スタイルを真似る動きも多

かった。さらに香港映画は、家族や友人、仕事、恋愛など身近なテーマなので、実際に参考できるケースも多い。ベトナムでは、現在も香港の映画やTVドラマが人気である。

## 2) 韓国ブランド戦略の影響を受ける

韓国政府は、'98年頃から、国家のブランド戦略として、韓国TVドラマをベトナムに輸出し始めた。政府が制作支援した韓国ドラマを通じて、韓国への理解と親近感を醸成し、韓国商品のイメージアップを図り販売を促進する。そして韓国に対するイメージも向上させるという国家ブランド戦略である。

初めての韓国ドラマは、恋愛物語の「医者兄弟」であった。社会主義の世の中では、恋愛の自由をテーマにしたドラマは、国営TVでは放映されていなかったために、ベトナム人の心に響き、韓国ドラマはブームになった。

韓流ドラマは、ベトナムの女性や若者達に対して、韓国のイメージを向上させるために大いに役立っている。韓国は、ドラマの影響を上手に利用して、直ぐに様々なビジネス展開を始めた。例えば、Hairサロン、メイク、ファッションや飲食店などのサービス業が、ベトナムに多く進出してきた。その時に必要となったのは、韓国語が話せる人材である。'95年代頃には、韓国語が話せる人材が少なく賃金がとても高かった。そこで韓国は各大学を訪問し、韓国語学科を開講するよう懸命にアピールをした。また韓国に留学して韓国語を学ぶための奨学金、あるいはボランティア組織なども作った。その目的は、韓国に対する否定的なイメージを払拭し（ベトナム戦争時に韓国軍は米軍と共に参戦）、韓国の文化に親近感を持ち、そして韓国語を話せるベトナム人を多く育てるということであった。

しかしその後、韓国は方針を転換した。ベトナム人に韓国語を学ばせる代わりに、韓国人にベトナム語を学ばせ、ベトナム語ができる韓国人を採用していった。この様に自己の都合しか考えない韓国に対して、ベトナム人の反発はあったものの、韓国側から見れば、彼らの戦略はベトナムに大きな影響を与え、成功したと言える。

しかしベトナム人と韓国人の気質や感性は大きく違うので、韓国文化は一般のベトナム人に対しては、深くは浸透していない。Kpopや韓流コンテンツなど表面的には韓国ブームが起きているが、内実はそれ程影響を受けていないのが現実である。韓国商品についても同様である。現状では、中国商品が粗悪なので、安くて比較的品质の良い韓国商品を購入している。本来、ベトナム人は、信頼が置ける日本製を使用したいと考えている。残念ながら日本製は一般のベトナム人にとっては高価であり、購入できないのが現状である。

## 3) 一般のベトナム人には、存在感が薄い日本ブランド

都市部の富裕層には、日本の高級車のトヨタのレクサスやカムリは大人気であり、ミドルアッパー層には、資生堂、メナードなどの化粧品、日本製粉ミルク、サプリメント、紙おむつなどの評価は高い。彼らは、これらの商品を通じて、日本の生活文化や日本人のきめ細かい心遣いが理解できるようになった。しかし一般的なベトナム人が日本を意識する

のは、バイクや味の素、日本食レストランを利用する時で、日本に対してそれ程深い理解をしていないと思われる。

例えば、ファッション分野では、日本には様々なバリエーションがあり、ベトナムの若者層にとって本来は魅力的であるが、渋谷や原宿ファッションしか伝わっていない。面白いTVドラマは数多くあるが、放映権コストで合意できず、また海賊版問題があるため、ベトナムでは殆ど放映されていない。アニメは人気だが、アダルトな変態イメージもある。

経済交流の面で見ると、日本はODAで道路や橋梁などベトナムのインフラ建設に昔から貢献し、ベトナム政府関係者などの評価は高いが、一般のベトナム人の殆どは知らない。また飛行場の改修などで多大な貢献をしているが、完成後、ターミナル内に設置されるのは韓国製TVである。この様に日本は、日本商品を普及させるための政策や日本イメージを向上させるための適切なコミュニケーション活動が不足しているのが現状である。

一般的に日本商品は、品質は良いが価格が高いために、ベトナムの富裕層とミドルアッパー層が対象となっている。今後、ベトナムは確実に中間層が増大して消費市場が拡大する。その中間層予備軍に対して、日本は、TVドラマや音楽、映画などのコンテンツ等の様々な視点や切り口からコミュニケーションを行い、ベトナムに於ける日本ブランドの普及拡大に、積極的に取り組むべきである。韓国や中国とは異なる洗練された日本商品を通じて、日本の快適なライフスタイルをホーチミン市民やハノイ市民に提供することを期待したい。



\* 富裕層には人気だが SONY の存在感は薄い

\* 新しい缶コーヒー文化を創り出した味の素

## 5. 日本への理解と動き出した越日文化交流

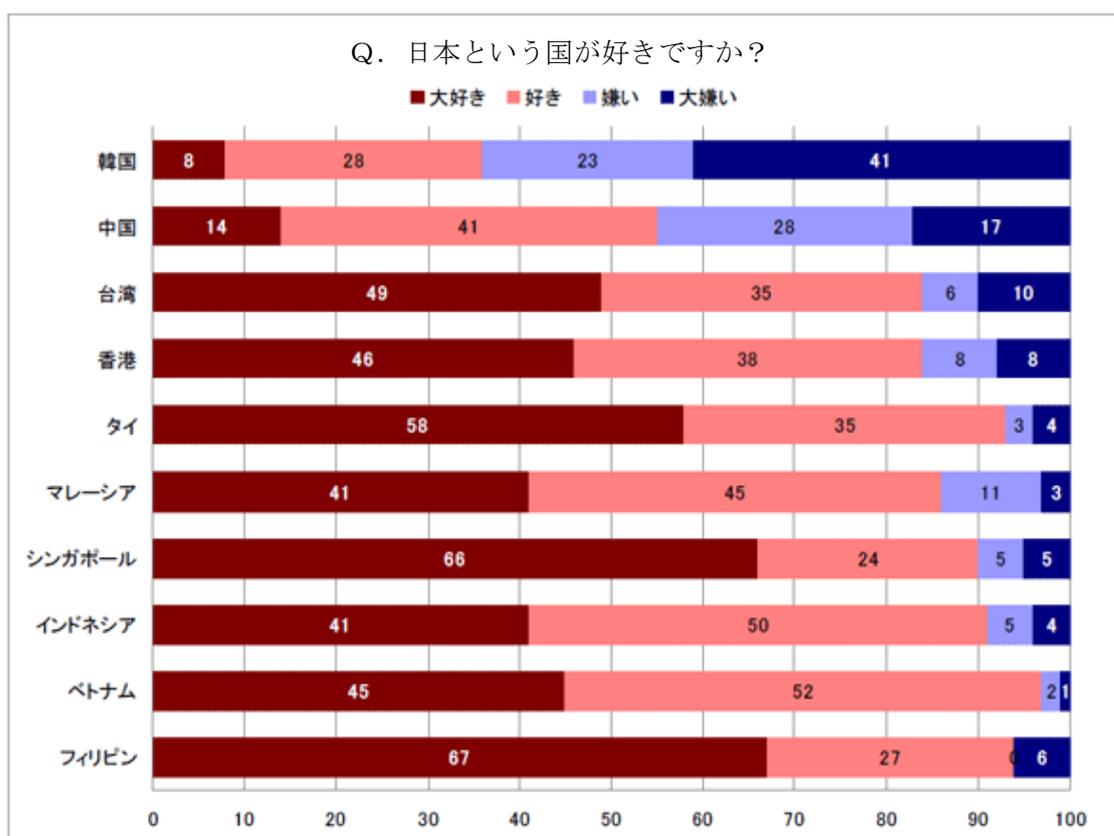
### 1) 大きく変わったベトナム人の日本に対する理解

ベトナム人が、日本人を理解する大きな出来事があった。‘11年3月11日の東北大震災である。未曾有の災害に直面し塗炭の苦しみの中にいる被災者達が、互いに励まし合いながら助け合い、規律正しく行動していた。日本人が一丸となって被災者を助ける姿が、連日ニュースで放映された。その姿を見たベトナム人は、心を大きく動かした。そして日本の国民性、日本国民の気質を理解し、以前より日本人、日本に対して親近感を抱いた。今

までは、真面目な日本人、働き蜂の日本人と思っていたが、震災後は、同胞を助け合う強い日本人の精神に対して、尊敬の念を持ったのである。

それはベトナムが、外敵からの侵略や自然災害に見舞われたときに、村や家族が一致団結して困難に立ち向かう過去の歴史を今回の大震災に投影し、不屈の精神力を持つ日本人に共感したからである。

グラフ 1. アジア GDP 上位 10 カ国の親日度調査



出所：アウンコンサルティング 調査実施 2012年10月26日～11月2日の期間  
インターネット調査、18歳以上の男女1,000人(各国100人)から有効回答

## 2) 活発な文化交流が期待されるベトナムと日本

今年は、越日交流40周年である。ベトナム政府は、日本との交流を大切にしている。そしてベトナムと日本との交流をより活性化するために、両国政府や両国産業界の間で様々な交流事業が行なわれている。

日本の小売業界では、日本商品の紹介だけではなく、茶道、書道、生け花、折り紙などの日本の文化を紹介するイベントを大学施設や青年会館などで実施している。アパレル分野では、ベトナムのファッションデザイナーが、日本で開催されるファッションショーに参加し、ベトナムの文化やファッションを多くの日本人に紹介した。また音楽の世界でも、越日交流が行なわれている。ベトナムと日本の歌手の相互交流やコンサートなどの交流イ

ベントが増えてきている。観光について見ると、反日運動が起きている中国への観光が不安な状況の中で、ベトナムを選択する日本人観光客は、'12年で48万人と増大している。またベトナムからの日本訪問者数はまだ少ないものの、約4万人まで増えてきている。

この様に越日交流は、ビジネスの世界から文化まで幅広い分野で行なわれ、相互の認知と信頼作りに大いに役立ち、今後、さらなる交流の拡大が期待される。

但し、ベトナム人と日本人との交流には大きな壁がある。それは日本人の英語力とベトナム人の日本語力、即ち言葉の問題である。ベトナムの富裕層の多くは、英語が出来るが、日本人は英語が得意ではない。しかし日本との経済交流が深まる中で日本語熱が高まり、この数年間、ホーチミンでは日本語学校が増えている。日本語を話すベトナム人が増えることにより、ビジネスや文化上でのコミュニケーションが円滑に行なわれると思われる。

## 6. 越日経済交流とベトナムへのワークスタイル&ライフスタイルへの影響

### 1) ベトナムと日本の経済関係

ベトナムは、市場経済化以降、諸外国との経済交流が多くなってきている。政府開発援助（ODA）分野では、日本のODA、ヨーロッパ各国のODA、そして世銀など国際ドナーからの開発支援プロジェクトがあり、道路などのインフラ基盤整備に大きく貢献している。

さらにODA以外では、外国企業の直接投資（FDI<sup>5</sup>）がベトナムの経済を大きく発展させた。その中でも特に、日本企業からのFDIは、シンガポールや韓国が減少する中でも、この10年間、拡大の一途であり、越日の経済関係はより緊密になっている。

ベトナム政府は、今後のグローバル戦略の中で、日本を戦略的パートナーとして位置づけ、日本のODAを有効に活用するための法案や評価法、人材開発などの環境整備を進めている。また日本企業のFDIを促進するため、進出に有利な様々な条件も提示している。そして進出を待つだけでなく、ベトナム各地域の商工会は、日本との貿易や投資を促進するため、日本各地を訪問し、商工会議所などを通じて企業誘致活動を積極的に行なっている。

ベトナムと日本との両国間貿易は、越日経済連携協定（'09年）により、貿易総額は大きく拡大してきている。そして現在、参加国間で熾烈な交渉が繰り広げられている環太平洋経済連携協定（TPP）が、合意され発効すると、加盟国間では、関税や様々な非関税障壁が撤廃される。ベトナムと日本の二国間を見ると、ベトナムからは一次産品を中心に輸出が拡大し、また日本の工業製品などの輸入が拡大することが予想される。日本とベトナムの二国間関係を戦略的パートナーシップに深化させるためには、政策対話はもちろんのこと、文化交流等による相互の理解と信頼関係の構築が何よりも重要である。

---

<sup>5</sup> FDI: Foreign Direct Investment 海外企業による直接投資

表1. FDI 認可の動向 新規 - 国・地域別 2010-2012 1-6 月

国名	2010 年				2011 年				2012 年(1 月～6 月)		
	件数	投資額	構成比 (%)	伸び率 (%)	件数	投資額	構成比 (%)	伸び率 (%)	件数	投資額	構成比 (%)
シンガポール	88	4,350.2	25.2	827.4	105	2,004.7	17.3	▲ 53.9	45	146.7	3.1
韓国	256	2,038.8	11.8	27.6	270	873.1	7.6	▲ 57.2	90	272.9	5.7
日本	114	2,040.1	11.8	1375.1	208	1,849.3	16.0	▲ 9.4	126	3,536.6	74.3
台湾	95	1,180.6	6.9	▲ 12.9	64	371.7	3.2	▲ 68.5	19	59.8	1.3
香港	43	154.0	0.9	▲ 79.3	49	2,948.2	25.5	1814.4	13	406.7	8.5
フランス	27	27.9	0.2	▲ 68.3	17	46.2	0.4	65.5	10	24.0	0.5

出所：日本貿易振興機構、ベトナム国家と民族、p31. より引用  
(計画投資省 'MPI) 資料に基づき、ジェトロ作成)

表2. ベトナムの輸出統計 (国、地域別)

単位 100 万ドル、%

	2010	2011		
	金額	金額	構成比	伸び率
米国	14,238	16,928	17.5	18.9
中国	7,309	11,125	11.5	52.2
日本	7,728	10,781	11.1	39.5
韓国	3,092	4,715	4.9	52.5
ドイツ	2,328	3,367	3.5	44.6
マレーシア	2,093	2,832	2.9	35.3
オーストラリア	2,704	2,519	2.6	-6.8
カンボジア	1,552	2,407	2.5	55.1
英国	1,682	2,398	2.5	42.6
合計 (その他含む、FOB)	72,192	96,906	100.0	34.2

出所：ベトナム統計局 税関総局

(注) 通関ベース

表3. ベトナムの輸入統計（国、地域別）

単位 100 万ドル、%

	2010	2011		
	金額	金額	構成比	伸び率
中国	20,019	24,594	23.0	22.9
韓国	9,761	13,176	12.3	35.0
日本	9,016	10,400	9.7	15.4
台湾	6,977	8,557	8.0	22.6
シンガポール	4,101	6,391	6.0	55.8
タイ	5,602	6,384	6.0	14.0
米国	3,767	4,529	4.2	20.2
マレーシア	3,413	3,920	3.7	14.8
インド	1,762	2,346	2.2	33.2
合計（その他含む、CIF）	84,801	106,750	100.0	25.9

出所：ベトナム統計局 税関総局

（注）通関ベース

## 2) ワークスタイルとライフスタイルへの影響

ベトナムの消費市場を対象とするFDI企業により、ベトナムの小売市場、食文化市場、そして都市のライフスタイルやワークスタイルなどが大きく変わっている。

ホーチミン市などで展開している日本のコンビニは、市民に新しい生活の利便性を提供している。日本製のバイクは、活動範囲を広げ、日常生活や通勤・通学になくはならないものになっている。また食品・飲料メーカー（インスタントラーメン、調味料、菓子、ビールなど）は、簡便化などの新しい食スタイルを定着させた。さらに日本企業が作った無農薬野菜などは、安全、安心、健康志向の高いホーチミンの消費者の大きな支持を集めている。

またベトナムの日系企業は、製造や販売に係わる教育訓練プログラムや仕事のマナー、管理手法、5S管理、そして報・連・相までをベトナム人労働者に基本から指導し、体得させている。ベトナム人は、個々人の向上心と能力は高いが、集団として協力しながら目標管理を行ない業務を遂行することは弱い。ビジネスマンとしての成長、そして企業の成長のためには、これらのマネジメントノウハウは極めて重要である。

今後ベトナムが、社会主義を基本として市場経済化の中で豊かな社会を迎えるためには、より生活を快適にするライフスタイルと効率性や仕事の喜びを実現できるワークスタイルの革新が求められる。その意味でも、日本企業を始めとして先進国企業の経験や知識の活用が重要である。



\* ホーチミン市内のホンダ・ディーラー



\* 市民の人気の拡大しているサッポロビール

## 7. ベトナム民族の誇りと将来へ向けて

ベトナムは、その歴史を振り返ってみても、戦争と平和の繰り返しの中で逞しく生きてきた。昔は千年に渡り中国に支配されたが、15世紀初めに独立を勝ち取った。近年では、フランス、そして超大国アメリカに勝利した。しかも敵国であったアメリカと現在では、友好関係を結んでいる<sup>6</sup>。

ベトナムは、この様に敵国であっても和解する寛容さを持ち、その国の文化を自国の生活習慣に取り入れ同化させて発展させる歴史を持っている。またベトナム人は、独自の伝統や文化を大切に、家族を思う心や勤勉さを規範にしている。そして外敵が現れば、多民族国家ベトナムは、全ての民族が、一致団結して、独立と自由と平和のために外敵に立ち向かう愛国心を持つ。さらに、ベトナムは、現在平均年齢が28才と若く、社会には活力がある。また2030年には人口が1億人を突破し、巨大消費市場になることが予想される。そしてベトナムには、祖国愛を持つ越僑約400万人の同胞がいる。さらに美しい自然があり、石油などの天然資源も豊富である。そして地政学的にインドシナ半島と南シナ海の回廊に位置している。ベトナム人は、この様な祖国に、誇りを持っているのである。

現在、ベトナムには、過剰都市化、インフレ、ビジネス環境の整備、貿易の自由化、領土問題などの課題が山積している。しかし、ベトナム人は、異文化に対する寛容性と同化力を持ち、また困難を乗り越え未来を切り拓く歴史に培われた強い意志力と祖国愛を持っている。そしてこの地域の経済と文化の十字路としての地理的優位性がある。

ベトナムは、これらの力を活かして、祖国への誇りを梃子に、国民が一致協力して、未来へ向けて、より幸せな生活、より活力のある社会、より豊かな国家を創造する時期に来ている。そのための第一歩として、ベトナムを代表するホーチミン市やハノイ市に於いて、1人ひとりの、そして家族の生活が幸福で快適になる都市型ライフスタイルを開発して、世界を魅了できるクリエイティブ・シティを創り上げていきたい。

<sup>6</sup> ベトナムと米国は、1995年に和解が成立し国交が正常化。2000年に通商協定を締結し、米国はベトナムを貿易最恵国とする。それ以降、ベトナムから米国向けの輸出が急拡大する。



\*フランス植民地時代の象徴「大聖堂」



\*ベトナム独立の父「ホー・チ・ミン」像

### 日本側共同研究者の視点

\*\*\*\*\*

#### ベトナムの地理的優位性と寛容性でアセアンの経済と文化の牽引役へ

ベトナムは、その地理的特性から、歴史的に近隣諸国や諸外国と様々な交流が行なわれてきた。そして民族の誇りを糧に、異文化を拒否せず受け入れ、独自の文化へと発展させてきた。約千年に渡る中国支配、日本との交流<sup>7</sup>、近隣諸国のカンボジアやタイ、ラオスとの交易と相互移住。そしてフランスの植民地化（1856年）に伴う欧州諸国との交流と文化的影響、さらに南北ベトナム時代（'54年～'75年）には、北は、旧ソ連や東欧圏と交流し社会制度の影響、南は、アメリカから生活スタイルやビジネスの影響などである。これらの地理的要因による異文化の影響、そして異文化に対する寛容性は、現在のベトナムの民族性や国家を形成する大きな要因になっている。

これからの地域の発展を俯瞰すると、ハノイ地域は、中国華南経済圏の発展と連動し、ホーチミン地域は、東西回廊（ホーチミンからプノンペン、バンコク、ダウエーを結ぶ）などを通じてバンコク等とのメコンデルタ経済圏と連動する。そしてまたインドシナ半島の5カ国と中国雲南省と広西チワン族自治区との間で電力や道路などのインフラ整備を目指した拡大メコン圏も動き出している。これらの地域及び地域共同体の成長可能性は高い。さらにアセアン経済共同体、環太平洋経済連携協定など諸外国との自由貿易を積極的に推進。自国の力だけでなく、海外との貿易や投資を活用しながら自国と地域共同体の発展を目指そうとしているのである。

今後、社会主義国家ベトナムは、アセアン諸国、そして日本を始め、中国、米国、太平洋諸国と協調しながら共に発展していくことが期待される。そのために重要なのは、武力

<sup>7</sup>日本との交流は早く、8世紀に日本の知識人である阿倍仲麻呂<sup>あべのなかまろ</sup>氏が、安南都護府<sup>あんなんとごふ</sup>（最近発見したタンロン王城遺跡、タンロンはハノイの旧称）に居住した史実がある。

によらない外交力の強化である。その点では、ベトナムは、歴史的にも隣国や諸外国と様々な緊張関係を乗り越えてきた強かな外交能力を持つ。そしてさらに重要なのが、他国を魅了する文化力である。ベトナムは歴史的に異文化を同化し新しい文化を創造する能力がある。ベトナムはそれらの潜在的ポテンシャルは高く、効果的なソフトパワー戦略を発揮できる。ベトナムは、東南アジアの文化及び経済交流の要として、その役割を果たすことを大いに期待したい。

\*\*\*\*\*

<参考文献>

- ・阿曾村邦昭編著、ベトナム国家と民族、(上巻、下巻)、古今書院、2013
- ・JETRO、2012年ベトナム一般概況 ～数字で見るベトナム経済～、2012年6月  
International Trade Center: <http://www.trademap.org/>  
<http://huc.edu.vn/vi/spct/id42/PHAT-HIEN-MOI-VE-QUAN-HE-NGOAI-GIAO--VIET-NAM--NHAT-BAN/>  
<http://www.asean.or.jp/ja/asean/known/statistics/3.html>
- ・生田真人著「東南アジアの大都市圏・拡大する地域統合」古今書院、2011
- ・今井昭夫・岩井美咲記編著「現代ベトナムを知るための60章」、2004